

石田家住宅

茅葺き屋根の石田家住宅は、1650 年に庄屋を世襲していた家のために建てられた現存する日本最古の農家である。その家族は建物が重要文化財に指定される 1972 年までこの家で暮らし続けた。今は建築時の建材を使用して 17 世紀当時の姿を再現している。

石田家住宅は、17 世紀初頭から京都北部の村々で発展した北山型農家建築の代表格である。北山型の住宅は正方形で、板壁と少し高くなった土間の玄関などが特徴である。石田家など最も古い建築では、玄関は切妻側で牛小屋の横にある。玄関に入って最初の部屋は、囲炉裏を中心とした台所と居間であり、この家の中で最も広い。居間の先には、主に来客を迎えるための畳の部屋、仏壇、家族が藁で寝泊まりしていた部屋などがある。

入母屋造りの屋根は、竹で組まれた骨組みの上に、釘ではなく縄で支えられている。その下には窓のない屋根裏部屋があり、数十年に一度の葺き替えのために乾燥させた草を保管していた。屋根は水に強いススキの厚い外層部、農家で大量に手に入る安価な稲わらの中層部、外層部・中層部を支える麻茎・おがらの薄い下層部の 3 層構造になっている。北山地方では伝統的にこの三段葺きが一般的であったが、現在では主に歴史的建造物に使用されている。ススキのみで葺いた屋根は耐久性が高いため、個人宅では主流となっている。

なお、石田家は美山町の西端、大野ダムの近くにあり、車でのアクセスが便利である。一般公開は 3 月から 11 月の土・日・祝日の午前 10 時から午後 4 時。